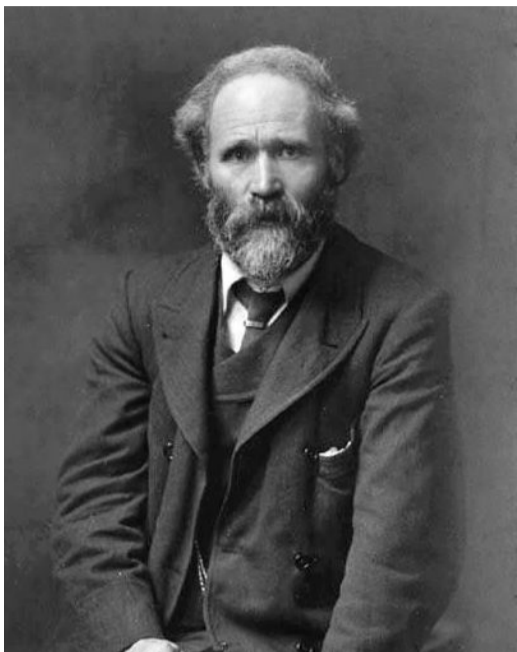


基督教友愛新聞

発行所：
白十字キリスト教
社会主義研究会
<http://www.ichthus.net/css>
発行人：
倉井 香茅哉(独立系研究者)

労働党創設の源流

自由・労働主義の限界が露呈、独立労働主義による社会主義者と労働組合の連携へ



写真：初代労働党党首ケア・ハーディ
(c) https://en.wikipedia.org/wiki/Keir_Hardie

今号では、一九世紀末の時代状況を背景としながら、労働党創設の源流について概説したい。

一八八〇年代以降、イギリスにはいくつもの社会主義団体が存在した。ただし、H. M. ハイナムマン率いる社会民主連盟は、労働組合主義者に批判的であった。また、中産階級の知識人によって創設されたフェビアン協会は、かならずしも労働者階級を社会主義運動の主体と看做していなかった。社会主義者と労働組合の連携を実現したのは、独立労働主義を領導したジェームズ・ケア・ハーディである。

スコットランド南部の

ラナークシャーに生まれたケア・ハーディは、九歳に満たない頃から、家計のために労働者としての生活を送った。パ

ン屋の小間使いを経て炭坑夫となった彼は、正規の学校教育を受けることなく、本屋のショールームに飾られている本を見て綴りを覚えた。一八七三年、一七

歳のときに禁酒運動に参加し、「自助と節約」の精神によって労働者を貧困から解放することを目指した。また、一八七七年にはキリスト教の信仰に至り、福音派の組合教会に通った。ケア・ハーディの社会主義は、政治的信条や経済理論にとどまらず、山上の垂訓に基づきキリスト教倫理と不可分であった。また、当時の彼は、ヴィクトリア朝の道徳観や自由党と連携する自由・労働主義の枠組みに収まっていた。

音楽家・小室哲哉氏が「引退」を表明

高次脳機能障害を患う妻・KEIKOの介護
自己の闘病生活の苦悩を率直に表明。
今後の社会福祉政策はどうあるべきか。

一月十九日(金)、日以降の困難が語られた。本を代表する音楽プロデューサーである小室哲哉氏が東京都港区のエイベッククス本社にて記者会見を開き、「引退」を表明した。一九八〇年代から最先端のシンセサイザー音楽を発表し、一九九〇年代には数多くの名曲でヒットチャートを席巻した天才の幕引きとして、あまりに突然であった。

週刊誌報道に起因する記者会見だったが、想定の「引退」という言葉の音楽家の身の振り方を起点に、二〇〇九年

一月十九日(金)、日以降の困難が語られた。妻であるKEIKOさんの家族介護の苦しみは、想像するに余りありたかたんじやなくて、音楽をやりたいと始めた、「好きな音楽をやりたい」という言葉は切ない。

会見の終盤、小室氏は、高齢社会における介護問題、社会的ストレスに言及し、日本社会への問題提起を残した。一人の音楽家の身の振り方をめぐり、何を学ばべきか。

一八九三年一月、独立労働党結成を経て、労働組合会議、労働代表委員会の成立まで

一八八七年、審議中の鉱山規制法案に八時間労働日の規定を盛り込むべくロンドンへ陳情に訪れた彼は、自由・労働派議員の冷淡な対応に直面した。自由・労働派議員は大組合の幹部であり、強大な組織力によって資本家と対等の立場で協議することを目指したため、労使間の問題に国家の介入を要請する必要がなかった。一方、組織力の弱いケア・ハーディらの労働組合にとって

は、労働時間の法的規制は不可欠であった。この頃から、彼は自由・労働主義の限界を自覚するようになる。折しも、一八

八六年末からラナークシャーでは坑夫たちのストライキが拡大した。冬場の石炭需要期に騎馬警官の出動が要請され、五〇名以上の労働者が逮捕された。そこでケア・ハーディが見たのは、資本家と国家権力の一体化であり、自由党系の新聞が労働者の暴動を批判するという現実であった。これらの出来事から、彼は、労働者階級の独立した政治勢力を結集する必要性を確信するに至った。

一八八八年三月、ケア・ハーディは、ミッド・ラナーク選挙区の補欠選挙に出馬した(最下位の六〇〇票で落選)。

彼の行動は自由・労働主義に揺さぶりをかけ、同年八月にスコットランド労働党(The Scottish Labour Party)が組織される。一八九二年の総選挙では、ロンドンのイー

スト・エンドにあるサウス・ウエスト・ハム選挙区で、ケア・ハーディが同党の候補者として当選を果たした。自由党の公式な支持を得ることなく当選した彼の存在は、独立労働主義の気運を全国的に高めた。一八

天帳院日記

一月二一日、社会経済学者の西部邁氏が自殺した。二一世紀初頭、中東情勢をめぐる激動の歴史の中で、保守思想に基づく非戦を主張した西部氏が存在に瞠目していた。昨年八月、山田正彦・元農林水産大臣の炉端政治塾で西部氏とお会いした際、最前席に座っていた僕は、「北海道出身の西部先生」についての「故郷」について質問した。すると、「昔、政治犯として逮捕されたとき、北海道から面会に来てくれた女性がいた。僕にとっては、彼女が故郷だった」とお答えになった。後の奥さんのことである。

一八八七年、審議中の鉱山規制法案に八時間労働日の規定を盛り込むべくロンドンへ陳情に訪れた彼は、自由・労働派議員の冷淡な対応に直面した。自由・労働派議員は大組合の幹部であり、強大な組織力によって資本家と対等の立場で協議することを目指したため、労使間の問題に国家の介入を要請する必要がなかった。一方、組織力の弱いケア・ハーディらの労働組合にとって

は、労働時間の法的規制は不可欠であった。この頃から、彼は自由・労働主義の限界を自覚するようになる。折しも、一八

八六年末からラナークシャーでは坑夫たちのストライキが拡大した。冬場の石炭需要期に騎馬警官の出動が要請され、五〇名以上の労働者が逮捕された。そこでケア・ハーディが見たのは、資本家と国家権力の一体化であり、自由党系の新聞が労働者の暴動を批判するという現実であった。これらの出来事から、彼は、労働者階級の独立した政治勢力を結集する必要性を確信するに至った。

彼の行動は自由・労働主義に揺さぶりをかけ、同年八月にスコットランド労働党(The Scottish Labour Party)が組織される。一八九二年の総選挙では、ロンドンのイー

スト・エンドにあるサウス・ウエスト・ハム選挙区で、ケア・ハーディが同党の候補者として当選を果たした。自由党の公式な支持を得ることなく当選した彼の存在は、独立労働主義の気運を全国的に高めた。一八

【参考文献】

- (一) 須藤博忠『イギリス社会運動史』(立花書房、一九五四年五月)
- (二) 関嘉彦『イギリス労働党史』(社会思想社、一九六九年二月)
- (三) 杉本穂『イギリス労働党史研究』(労働同盟の形成と展開) (北樹出版、一九九九年二月)

(つづく)

告知

無教会全国集会

2017 (記録集)

無教会とは

コリントの信徒への手紙一 (6章19節)

知らないのですか。あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿ってくださる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないのです。

2017年10月28(土)～29日(日) ※終了
千葉県市川市・山崎製パン企業年金基金会館

記録集ブログ公開中!!

<http://blog.goo.ne.jp/mukyokai2017> (または、下記のQRコードから)



無教会全国集会準備委員会